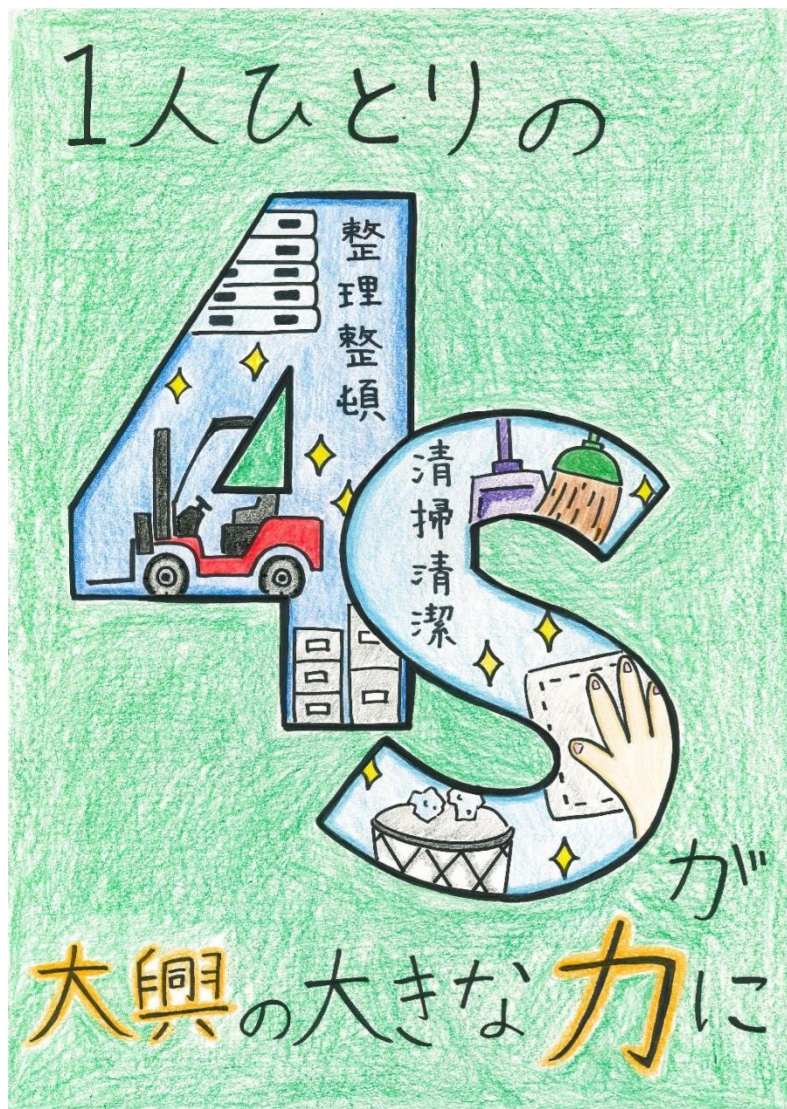




# TAIKOH Report 2026

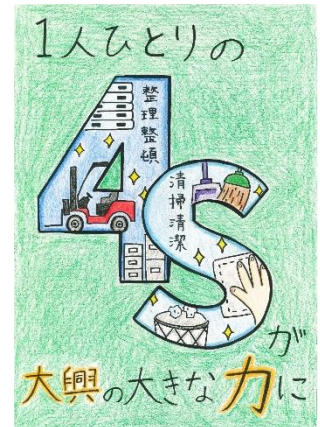


**大興運輸株式会社** 

目次

	ページ
2025年度のトピックス	… 1
ごあいさつ	… 2
I. 企業概要	
1. 会社概要	… 3
2. 理念（行動規範・サステナビリティ ・マテリアリティ・健康経営 含）	… 3
3. 体制	… 7
4. 売上高推移	… 7
5. 物流形態	… 8
6. 物流センター機能	… 8
II. ISOの取組み	
1. 取組み体制	… 9
2. ISO 認証取得状況	… 9
3. ISO14001 外部審査	… 10
4. 内部監査	… 10
III. 安全品質活動	
1. 豊田自動織機グループ 安全ビジョン	… 11
2. 安全・品質の取組み	… 11
3. 年度別輸送トラブル・事故発生状況	… 12
4. 3Q向上のための社内行事	… 13
5. 安全運行・安全作業確保に向けた設備投資	… 14
6. 教育・指導	… 14
7. 中央安全衛生委員会	… 14
8. 乗務前・乗務後点呼	… 14
IV. 環境活動	
1. 中期環境目標	… 15
2. 2025年度目標と活動結果	… 16
3. その他 地球温暖化防止への取組み	… 20
4. 油等漏れ未然防止活動	… 21
5. 環境会計	… 22
6. コミュニケーション	… 22
7. 親会社	… 23
8. グループ会社	… 23
9. 2026年度の取組み計画	… 24
V. ステークホルダーに関わる活動	
1. お客様との関わり	… 25
2. 社会との関わり	… 25
3. 従業員との関わり	… 26

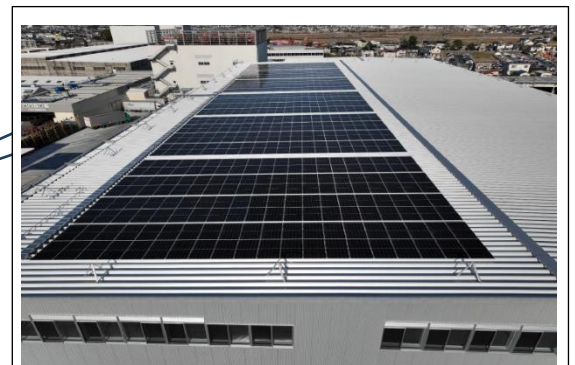
対象期間：2025年4月～2026年3月



表紙デザイン  
西尾物流センター 吉迫 雅博さん

2025年度のトピックス

- ・ 安城支店  
西構内太陽光発電導入



安城支店 西構内太陽光発電導入

## ごあいさつ

みなさまには、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

当社は、『より豊かな社会とくらしに貢献するため、企業の永遠の繁栄をめざします』を企業理念に掲げ、「お客様の信頼に応え、よき企業市民として地域の発展に寄与」することを目指して、事業活動を展開しております。社会的責任を果たすことは企業の基本的責務ととらえ、日頃より様々な活動に取り組んでおります。

当期における輸送業界は、依然として人手不足が続く中、法改正による業務手続の見直しや、物流効率化への取組などの対応を迫られております。

このような状況におきまして、当社の主要顧客である自動車産業におきましては、為替相場やハイブリッド車の需要に後押しされ、堅調な伸びが期待されたものの、米国の金融政策動向や中東情勢への不安により、先行きは不透明な状況が懸念されております。

このような中、環境変化に対応し持続的成長に向けて、「安全・品質向上のための諸施策」、「収益力向上に向けた体質強化」、「適正原価を求めた運賃・料金の改定」により経営基盤の強化に対処しました。

この結果、当期の売上高は、前期に比べ 48 億 38 百万円 (11.5%) 増加し 469 億 46 百万円となりました。経常利益につきましては、前期に比べ 15 億 44 百万円 (59.6%) 増加し 41 億 33 百万円となり、いずれも過去最高となりました。

環境面の活動では、天然資源である石油を有効に活用するために、デジタル式タコグラフの活用によるエコドライブ指導や移動体太陽光発電の省エネ機器導入などに継続的に取り組んでおります。また、電力使用量削減のため、デマンド監視装置を使用した電力使用時間帯の調整、LED 照明への切り替えや、太陽光発電、CO2 フリー電力などの再生可能エネルギー導入拡大に力を入れております。

地域との関わりとしましては、交通安全活動への積極的な参加をはじめとして、地域に根差した取組みを行っております。また、輸送に携わる会社として、ドライブレコーダーや運転適性検査器を使い乗務員の安全意識を高め、技能訓練センターにて運転技術の向上のための教育・訓練を実施しております。

社会規範の遵守に向けては、「豊田自動織機グループ行動規範」の周知、「内部通報窓口」の活用による適切な対応に取り組むとともに、現地・現物での監査により、企業統治の強化を図っております。

ここに、当社の活動を、「TAIKOH Report 2026」として発行いたします。

依然として先行き不透明な企業環境が予測されますが、当社は一丸となって迅速かつ徹底的に生産性の向上を図るとともに拠点の整備を進め仕事量を維持すべく、邁進してまいります。そのためにも安全・品質の向上により足元を固め、みなさまに信頼される企業となるよう活動してまいります。

みなさまの一層のご支援をお願い申し上げます。

2026 年 5 月

大興運輸株式会社  
取締役社長 河井 康司

# I. 企業概要

## 1. 会社概要 (2026年3月現在)

社名	大興運輸株式会社	
本社	愛知県刈谷市新栄町二丁目38番地	
設立	1943年5月1日(昭和18年)	
資本金	83,985,000円	
売上高	469億円(2025年度)	
正従業員数	1,455名	
営業用自動車台数	732台	
フォークリフト台数	777台	
主な事業内容	1) 一般貨物自動車運送事業 3) 貨物軽自動車運送事業 5) 運送取次事業 7) 加工、検査作業の請負事業 9) 労働者派遣事業	2) 特別積合せ貨物運送事業 4) 利用運送事業 6) 倉庫業 8) 荷役、梱包等の請負事業

(CSRに関する活動は、当社ホームページ <http://www.taikoh.co.jp/> でもご覧いただけます。)

## 2. 理念

企業理念のもと、「安全・品質方針」「環境方針」を掲げ、理念の実現に向けた活動を行っています。更に、多様化、複雑化したグローバルでの課題を踏まえ2022年度新たに「サステナビリティ方針」を策定しました。

また、現在当社が取組むべき重要課題「マテリアリティ」を明確に定義し、2030年に向けた目標を策定し実行していきます。

### 企業理念

より豊かな社会とくらしに貢献するため、企業の永遠の繁栄をめざします。

- 1) お客様の信頼に応え、よき企業市民として地域の発展に寄与します。
- 2) 会社の発展と個人の幸福の一致をはかり、夢に挑戦します。
- 3) 自然を大切にします。

### 行動規範

当社ではコンプライアンス徹底するため、一人ひとりのあるべき行動を分野ごとに明確にした「豊田自動織機グループ行動規範」を規程化し、コンプライアンス順守の意識を浸透させるため「コンプライアンス宣言」を策定しました。

#### コンプライアンス宣言

豊田自動織機グループに働く一人ひとりは  
社是の精神のもと  
コンプライアンス順守を全ての業務の土台とし  
オープンで対等なコミュニケーションのできる  
職場づくりに努め  
誠実に正しい業務を正しく行います

### サステナビリティ方針

私たち(大興運輸株式会社およびその子会社)は、「豊田綱領」および「企業理念」に基づき、あらゆる企業活動を通じて社会・地球の調和のとれた持続可能な発展に貢献します。

私たちは、持続可能な発展のために、全てのステークホルダーを重視した経営を行い、オープンで公正なコミュニケーションを通じて、ステークホルダーとの健全な関係の維持・発展に努めます。

私たちは、取引先がこの方針の趣旨を支持し、それに基づいて行動することを期待します。

## コンプライアンス

- ・私たちは、国内外・国際的な法令・ルールおよびそれらの精神を遵守し、高い倫理観をもって、誠実、健全かつ公正な企業活動に努めます。
- ・私たちは、独占禁止法、贈収賄規制法、知的財産保護法、個人情報を含むデータ保護法などに関わる法令違反行為に関与しません。

## 人権の尊重

- ・私たちは、「国際人権章典」や「労働における基本的原則及び権利に関する国際労働機関（ILO）宣言」などの各種国際規範を踏まえ、企業活動を取りまく全ての人々の人権を尊重します。

## リスク管理の徹底

- ・私たちは、市民生活や企業活動に脅威を与えるテロ、サイバー攻撃、自然災害、感染症の蔓延、サプライチェーンリスクなどの多様化するリスクに備え、組織的な危機管理を徹底します。

## 経営トップの役割

- ・経営トップは、本方針の精神の実現に向け、自ら率先垂範の上、実効あるガバナンスを構築し、グループ各社への周知徹底に努めます。

また、本方針に反するような事態が発生したときには、経営トップが率先して問題解決、原因究明、再発防止などに努め、その責任を果たします。

## ■各ステークホルダーとの関わり

### お客さま

- ・私たちは、「お客さま第一」という信念に基づき、お客さまとの信頼の絆である安全と品質の更なる向上に向け「安全、確実、丁寧」な輸送と保管を心がけ、お客さまに満足していただける物流サービスを提供します。

### 従業員

- ・私たちは、「企業活動の成功は、従業員一人ひとりの個性と能力を伸ばし、全体の総合力を発揮することによってこそ達成される」との信念のもと、従業員を尊重し、個々人の成長を支援します。
- ・私たちは、均等な雇用機会を提供するとともに、従業員の多様性を確保し、職場力の強化に努力します。
- ・私たちは、従業員に対し公正な労働条件を提供し、安全かつ健康的な労働環境を維持・向上するよう努めます。
- ・私たちは、従業員との誠実な対話と協議を通じ、「相互信頼・相互責任」の価値観を構築し共に分かち合います。そして、従業員と会社がお互いに繁栄するよう共に努力します。

### 取引先

- ・私たちは、サプライヤー・販売店などの取引先を尊重し、長期的な視野に立って相互信頼に基づく共存共栄の実現に取組みます。
- ・私たちは、取引先の決定にあたっては、全ての候補に対しその国籍または規模に関わらず門戸を開き、その総合的な強みに基づき判断します。



### 株主

- ・私たちは、株主の利益のために、長期安定的な成長を通じ企業価値の向上を目指します。

### 地域社会

#### 【環境】

- ・私たちは、企業活動を通じ環境保全に努め、社会との連携を図り、地球温暖化防止など、環境との調和ある成長を目指します。

#### 【社会】

- ・私たちは、各国の文化・慣習・歴史および法令を尊重し、それぞれの地域社会から信頼される経営を実践します。
- ・私たちは、安全でクリーンかつ社会のニーズを満たす優れた技術を常に追求します。

### 【社会参画と発展への貢献】

- ・私たちは、社会との共生をめざし、企業活動を行うあらゆる地域において、独自にまたはパートナーと協力して、コミュニティの成長と豊かな社会づくりに参画し、その発展に貢献します。

### マテリアリティ(重要課題)の特定

#### 1) マテリアリティ項目

- ・カーボンニュートラル社会への貢献
- ・安全・安心なサービスの提供と職場構築
- ・持続可能な物流サービスの提供・進化
- ・コンプライアンスとリスク管理
- ・働きがいがある職場づくり、人材育成とダイバーシティの推進
- ・地域社会への貢献と共生

### 安全・品質方針

安全（職場安全・輸送安全）と品質は経営の基盤であり、最重要課題である。物流企業としての社会的責任を果たすと共に、お客様との信頼のきずなである安全と品質の更なる向上をめざします。

#### 1) 職場安全方針

- ・ 不安全行動を排除して、災害のない職場づくりをします。

#### 2) 輸送安全方針

- (1) 輸送安全の確保が最も重要であるという意識を全従業員が持ち、日々の管理を徹底して交通事故防止に努めます。
- (2) 輸送安全マネジメントを全従業員が一丸となって確実に実施することにより、継続的に輸送安全の向上に努めます。

#### 3) 品質方針

- ・ お客様の大切な製品を安全・確実・丁寧に扱い、納期を守りお届けします。

### 環境方針

私たちは企業理念に基づき、全員参加で地球環境の保護・改善に取り組みます。

#### 1) 脱炭素社会の実現に向けて、環境負荷を低減して地球環境にやさしい物流サービスを提供します。

- (1) エコドライブの実践、適正な車両及び設備の管理、IT機器の有効利用により、大気汚染低減、地球温暖化防止、気候変動の緩和・適応等に取り組みます。
- (2) 省資源・省エネルギー・3Rを推進し、循環型社会を目指します。
- (3) 効率輸送を展開し、環境にやさしい物流サービスを提供し、環境性能に優れた車両の導入も検討していきます。

#### 2) 法令・協定など環境への要求事項を遵守します。

#### 3) 環境にかかわる社会貢献活動に積極的に参加します。

#### 4) マネジメントシステムを有効に活用し、目標を具体的に定め定期的な見直しを行い、継続的な改善に努めます。

#### 5) この環境方針を全社員に周知し、社外に公開します。

## 健康経営

当社は、豊田自動織機グループの健康宣言を受けて、「『健康経営』※1に基づく、心身の健康を自ら考え実践できる人・職場づくり」を中期的な課題として、生活習慣病予防とメンタルヘルス支援活動を中心に従業員の健康づくり活動を推進しています。従業員一人ひとりが、いきいきと第一線で働けるよう、自身の健康と向き合い自らの意思と意欲で行動できる自立した健康文化の醸成に向けてサポートを行っています。

※1:健康経営はNPO 法人健康経営研究会の登録商標



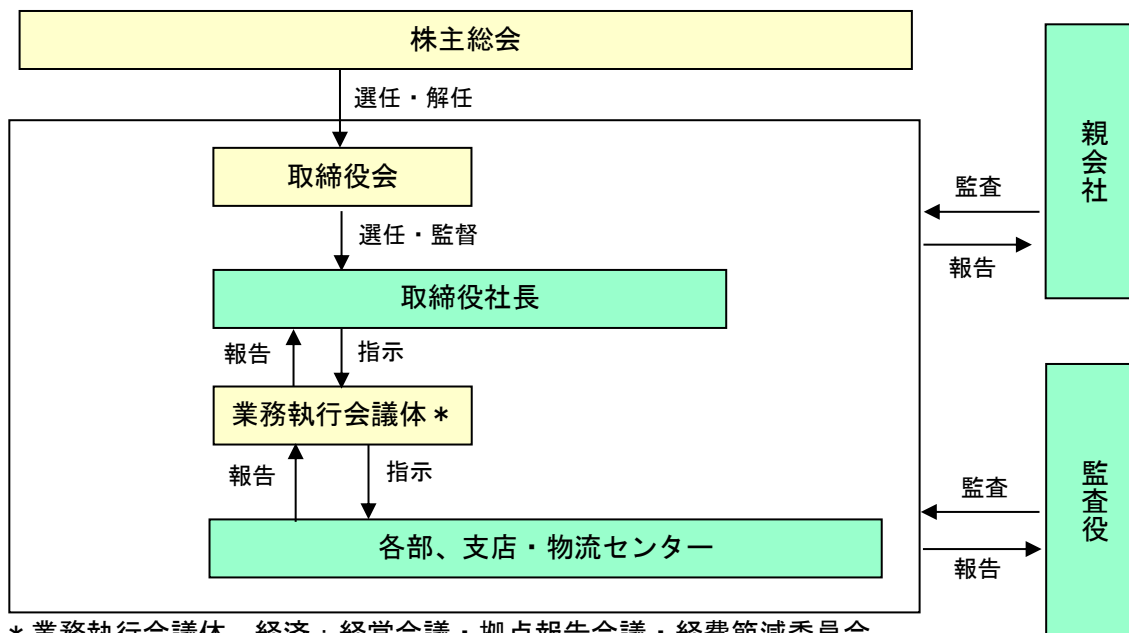
健保連愛知による  
健康宣言チャレンジ  
事業所認定証

## 2025 年度 会社方針

- |            |   |
|------------|---|
| 1) 【CSR】   | コンプライアンスの知識・意識向上による不正事案の防止  |
| 2) 【安全・品質】 | 徹底的な4S活動による安心・安全な職場環境づくり<br>一人ひとりの意識・技能レベル向上に向けた安全品質活動                                      |
| 3) 【環境】    | 全員参加による中期環境目標の達成  |
| 4) 【人材】    | 一人ひとりの能力/成果を認め、<br>各人が成長・活躍を実感できる制度への改革   |
| 5) 【競争力】   | 成長分野の開拓による収益拡大<br>限りあるリソースの最適活用<br>持続可能な最適発注による原価低減<br>デジタル活用による生産性向上と<br>サイバーセキュリティリスクへの対応 |

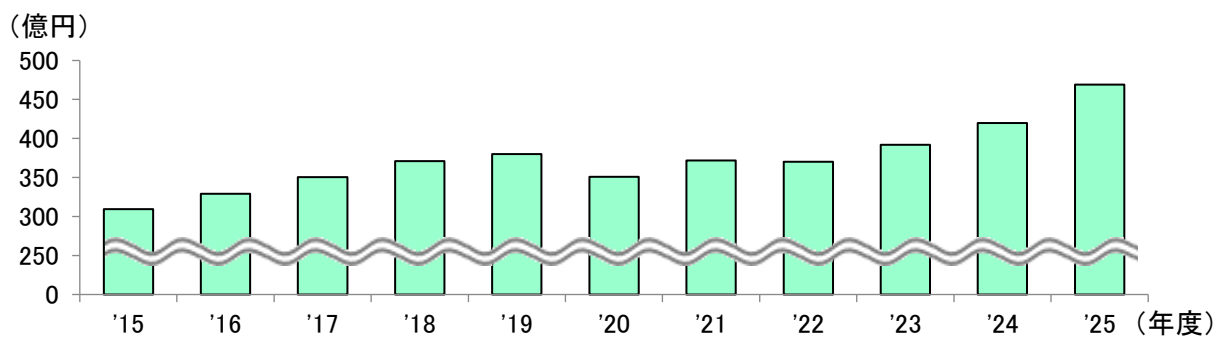


### 3. 体制

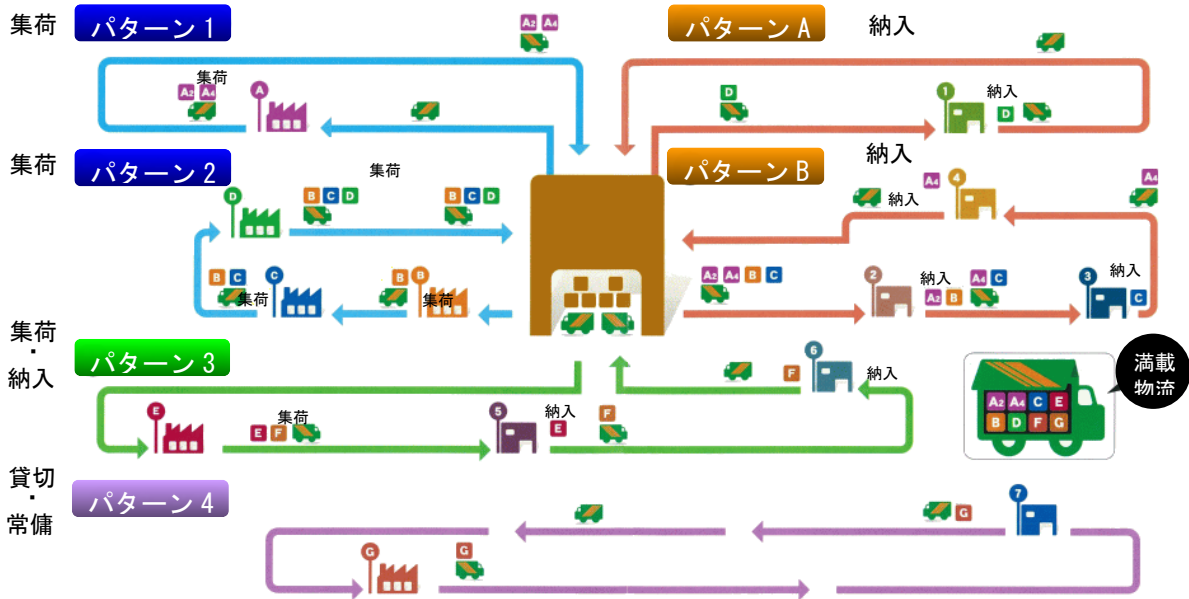


\* 業務執行会議体 経済：経営会議・拠点報告会議・経費節減委員会  
 環境：マネジメントレビュー・環境委員会  
 社会：CSR委員会・中央安全衛生委員会・安全品質会議・改善推進委員会

### 4. 売上高推移



## 5. 物流形態

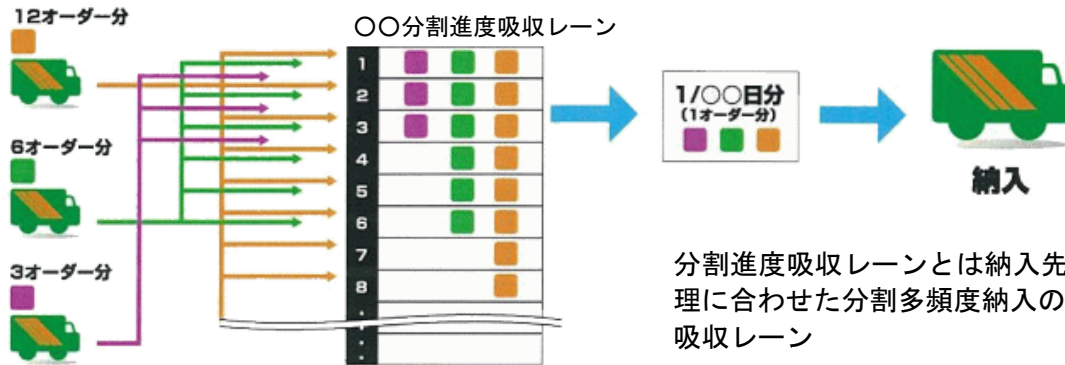


様々な物流形態・豊富な車両ラインナップで、お客様ニーズに対応致します。



## 6. 物流センター機能

### 1) 分割進度納入



分割進度吸収レーンとは納入先の工程管理に合わせた分割多頻度納入のための吸収レーン

### 2) 順立て

ボディーメーカーの組立ラインで流れる順に部品をピッキング、セットします。



### 3) 流通加工

製品の組付けを行います。



#### 4) 検査・検品

製品の目視検査、感応検査などの検査・検品を行います。



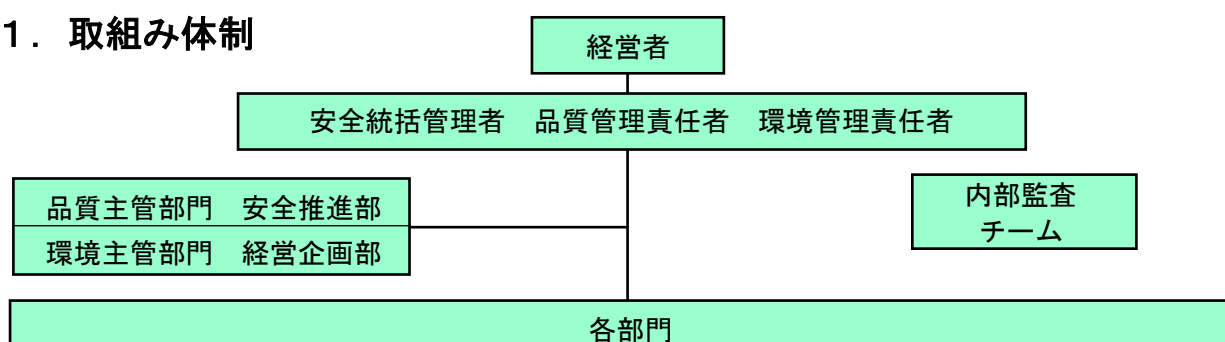
#### 5) 詰替え・梱包

輸入コンテナ品・大箱ダンボールの開梱、通箱への詰替えや指定ダンボール箱への梱包を行います。



## II. ISOの取組み

### 1. 取組み体制



### 2. ISO 認証取得状況

ISO14001 を認証取得しています。



ISO14001  
JQA-EM2729

部門名	認証取得時期
	ISO14001 外部認証
本社	2002年11月
安城支店	2004年11月
田原支店	2003年11月
東富士支店	2004年11月
岡崎支店	2002年11月
西尾物流センター	2023年11月
豊田支店	2006年10月
みよし支店	2003年11月
明知物流センター	2008年11月
刈谷支店	2002年11月
半田支店	2002年11月
半田支店 上地倉庫	2007年10月
関東支店	2003年11月
結城物流センター	2016年10月
東北物流センター	2016年10月
大阪支店	2004年11月
広島物流センター	2023年11月

### 3. IS014001 外部審査

2025年8月に※JQAによる定期審査を受審しました。  
指摘された事項に対して2025年度下期に見直しを実施し、  
改善されたシステムで運用を行っています。

判定	定義	件数
グッドポイント	良い事象	5件
改善指摘事項	マネジメントシステム要求事項の一部を満たしていない場合	0件
改善の機会	改善の余地があると見受けられた事象	6件

指摘された改善の機会に対しては関連部門に横展開し  
対応を図っています。

※JQA：一般財団法人 日本品質保証機構



現場確認の様子

### 4. 内部監査

#### 1) 監査員の養成

監査員を務めることは、IS09001・IS014001の範囲にとどまらず、他部門の業務を見る絶好の機会です。人材育成の一環として、社内研修により監査員を養成しています。

2026年3月末現在、品質監査員204名(事務職・職長格の82%)、  
環境監査員215名(事務職・職長格の86%)が監査員として  
認定されており、品質・環境、さらには業務の監査が行える  
監査員の養成を目指しています。

また、この研修にはグループ会社も参加しています。  
他社の活動・業務を知ること、  
よりよい活動ができるよう刺激を与えています。



監査員レベルアップ研修の様子

#### 2) 監査員のレベルアップ

監査員の能力向上・監査の質向上を目的に、監査実施前に当該監査員を対象に「内部監査員レベルアップ研修」を実施しています。

監査チームのメンバーは、ベテランと若手を混成し、監査を経験するなかで若手監査員がベテラン監査員から監査のポイントを学び、核となる監査員になれるよう取り組んでいます。実のある監査となるよう、監査チームは事前準備にも力を入れ、監査を実施しています。

#### 内部監査員レベルアップ研修 カリキュラム

- (1) 監査実施要領・ポイントの説明
- (2) 監査チームでの「監査計画」「監査チェックリスト」の作成
- (3) 事務局による「監査計画」「監査チェックリスト」の事前チェック

### 3) 内部監査結果

2025年度は2回の定期監査を実施しました。品質・環境監査のなかで、安全についても、あわせて監査を行っています。内部監査は「改善のチャンス」と捉え、被監査部門にできるだけ多くのチャンスを与えられるよう、監査員がシステムをチェックします。指摘事項については是正を行い、次の監査にて是正内容の確認を実施しています。



内部監査の様子

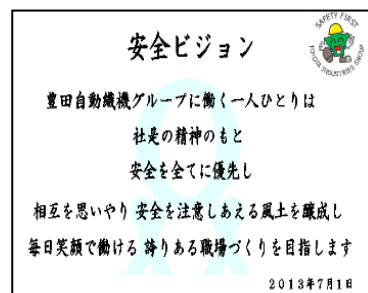
判定	定義	第1回(7月)	第2回(2月)
ストロングポイント	強調して取り上げた良い事象	6件(品質5・環境3)	9件(品質8・環境2)
改善指摘	要求事項を満たしていないような事象	0件	1件(品質0・環境1)
改善の機会	改善の余地があると見受けられた事象	18件(品質8・環境10)	12件(品質0・環境12)

件数は環境と品質で重複してカウントする項目もあるため、内数( )の計と一致しない

## Ⅲ. 安全品質活動

### 1. 豊田自動織機グループ 安全ビジョン

豊田自動織機グループが目指す安全の姿を安全活動の拠りどころとして明文化した安全ビジョンを全従業員で共有しています。安全衛生委員会では安全ビジョンを掲揚し、各種会議冒頭にて安全宣言を行っています。また、歩行安全行動「ポケテナシ活動」の、のぼりを各部門に掲示し安全文化の構築活動を行っています。



安全ビジョン

### 2. 安全・品質の取組み

私たちは、安全、確実、丁寧な輸送・保管を心がけ、お客様に満足していただける物流サービスを提供するために、運輸安全マネジメントを全員参加で実施することにより、安全と品質の向上に努めています。

安全性優良事業所として、全日本トラック協会より下記16拠点が認定されています。

安城支店	田原支店	東富士支店	岡崎支店
西尾物流センター	豊田支店	みよし支店	明知物流センター
高岡物流センター	刈谷支店	半田支店	関東支店
結城物流センター	東北物流センター	大阪支店	広島物流センター

事故・輸送トラブル・労働者災害を未然に防止するため、安全・品質方針に基づき、3Q向上活動(事故・輸送トラブル・労働者災害の発生を予防するための品質向上活動)として、基本にこだわった教育・指導を実施しています。



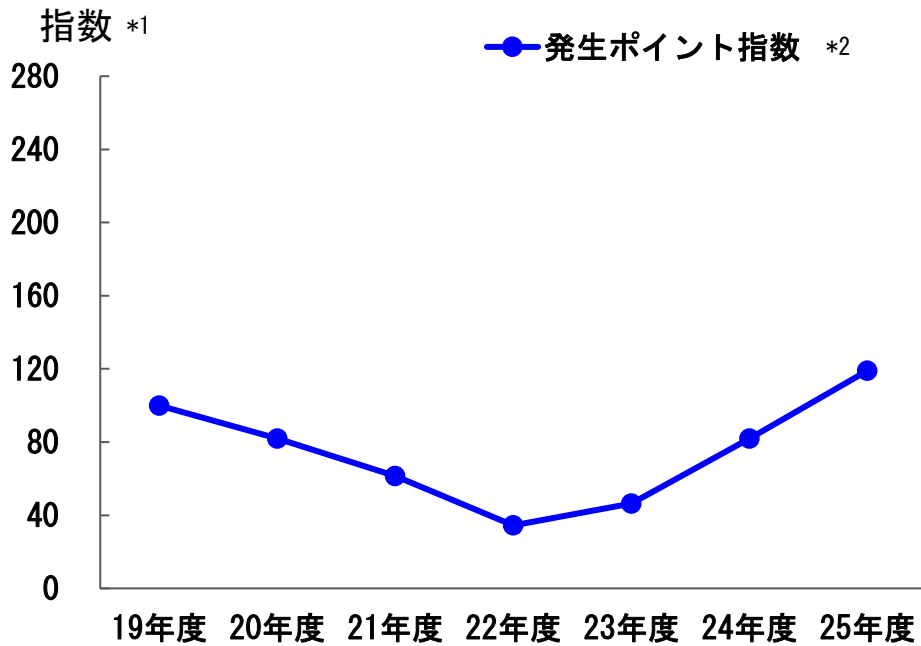
安全性優良事業所認定

※ 当社の安全対策を大興運輸ホームページにて紹介しています。

[大興トップページ](#) > [サステナビリティ](#) > [安全品質方針及び取組み](#)

### 3. 年度別輸送トラブル・事故発生状況

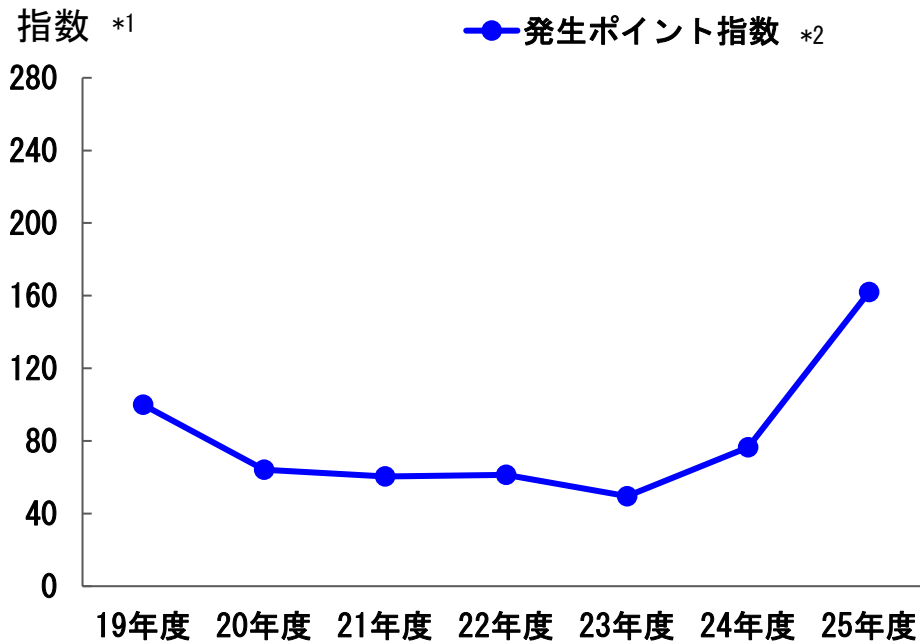
#### 1) 輸送トラブル



要因：  
業務拡大に伴う仕事量の増加と共に隣接確認不足・積付確認不足を要因とした事案が増加し前年度に対し増加

対策：  
個人に寄り添った指導の実施・安全対話の充実

#### 2) 事故（構内も含んだトラック・リフトの事故）



要因：  
後方確認不足による軽微な事案が多く発生し前年度に対し増加

対策：  
一人ひとりの力量に合わせた基本操作の徹底指導・安全意識向上

\*1 指数：2019年度を100とし算出

\*2 発生ポイント：社内基準に基づき行為行動により判定された点数

## 4. 3Q向上のための社内行事

### 1) 運転技能交流会

2025年度は前年度に引き続きコミュニケーションを主眼に置き運転技能交流会を開催しました。コミュニケーションの活性化と教える人のレベルアップによる3Qトラブルの防止を目的とし、班長並びに勤続3年以内の乗務職・業務職を対象にトラック・フォークリフトの技能を競い合いました。また、来賓としてトヨタ自動車株式会社様、東海調物輸送幹事会社様が交流会の様子を見学されました。



運転技能交流会の様子

### 2) 安全品質大会

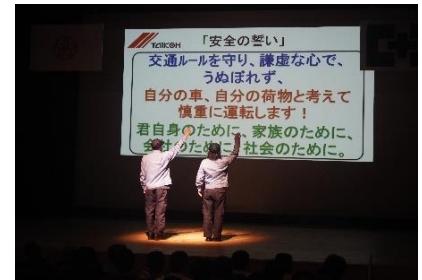
安全意識の高揚と輸送品質のさらなる向上を図るため、安全品質大会を実施しています。中央安全衛生委員長による「開会宣言」に始まり、社長・労働組合執行委員長の挨拶、安全品質表彰、社長表彰、永年無事故表彰、善行従業員表彰を行いました。また、2025年度は毎月20日に過去の事故を振り返り、安全を誓う「大興安全の日」の制定が宣言されました。その後は「みんなで築く！安全・品質の風土改革」を主題に外部講師による講演を行うとともに、若手社員代表による「安全の誓い」を実施しました。最後は、安全品質管理者による3Q向上運動強化月間のキックオフにて閉幕しました。



「大興安全の日」制定



外部講師による講演



社員代表による「安全の誓い」

### 3) 全社セーフティ・ラリー

1チーム5名で一定期間の無事故・無違反を競い、事故・違反の減少を目的とした交通安全運動です。2025年度は1,613名、269チーム（2024年度は1,616名、280チーム）が達成しました。無事故・無違反達成チームには記念品として、ペンストラップが配付されました。



## 5. 安全運行・安全作業確保に向けた設備投資

支店・物流センターには構内カメラを設置しています。また、安全運行を把握するため、ネットワーク型デジタルタコグラフ・ドライブレコーダーとバックカメラをすべての営業用車両に設置し、運行状況を確認するとともに交通事故未然防止に活用しています。

また、2023年度には、大型トラックの運転シミュレーターを導入し、よりリアルなKYT、事故体験を行う事ができるようになり、交通事故防止教育に活かしています。

2024年度は左折巻き込み警報システムを全車両に設置し、交差点内での左折巻き込み事故未然防止に活用しています。



バックモニター



左折巻き込み警報装置



運転シミュレーター

## 6. 教育・指導

新入社員や事故惹起者を対象とした技能訓練センターでのリフト教育、全社員を対象に現場パトロールを通じた指導が行われています。

また、ドライブレコーダーの映像を活用し、個別指導や危険予知訓練を実施しています。

運転時には\*コメンタリー運転を推奨し、漫然運転の防止及び危険予測能力の向上を図り、事故防止に努めています。

2017年度より技能訓練センター内にある「安全道場」で、過去に発生した労働災害の体験教育を中心に全従業員へ行っています。

また、2020年度より適性診断認定機関として国土交通省より認定を受け運転適性診断（NASVA ネット）を実施しています。

認定を受けた診断：1. 初任診断 2. 適齢診断 3. 特定診断 I 4. 一般診断

\*コメンタリー運転： 移り変わる道路や交通の状況を、実況放送しているように話しながら、車を動かす運転方法。コメンタリー運転を実行することで、注意力の低下を防ぎ、危険に対する警戒心を高めることが可能。



安全道場

## 7. 中央安全衛生委員会

全社の安全衛生に関する事項は、中央安全衛生委員会で労使双方による協議のうえ決定しています。夏は熱中症対策として空調服の導入検討や倉庫のWBGT管理に加え、飲料、塩飴の配布を実施しています。また、内閣府の全国交通安全運動、愛知県の交通安全県民運動に参画しています。毎年2回、3Q向上運動強化月間を設定し、物流パートナーと連携して労災・事故・輸送トラブルの発生件数ゼロを目標に、重点テーマを掲げ目標達成を目指します。

また、安全標語・ポスターを従業員・従業員家族・物流パートナーから募集し、安全への意識を高めています。

## 8. 乗務前・乗務後点呼






法律に基づき、点呼を実施しています。特に乗務前点呼時のアルコール検査は法規制前より導入しており、安全な運行を確保しています。乗務後点呼ではデジタルタコグラフのデータをもとに、安全面・環境面の指導を行っています。また、2020年5月より関東支店と東北物流センター間2024年より安城支店と北山崎倉庫間でIT機器を使った遠隔点呼を開始しています。

## IV. 環境活動

### 1. 中期環境目標（2021～2025）

カーボンニュートラルの動向を考慮した環境方針に基づき、持続可能な社会の実現に貢献するため、具体的な行動計画として2021年に「中期環境目標（2021～2025）」を策定し、2025年度を最終年度として活動してきました。


中期環境目標は 1) 脱炭素社会の構築、2) 循環型社会の構築、3) 環境リスク低減と自然共生社会の構築、4) 環境マネジメントの推進 から構成され、全員参加で取り組みました。

取組み項目	取組み方針	実施事項	2025年度目標値	貢献するSDGs
脱炭素社会の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境負荷を低減し地球環境に優しい物流サービスの提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>低燃費車両導入（将来のFCV、水素エンジントラックも検討）</li> <li>エコドライブの推進、</li> <li>高効率バッテリーリフト／FCVリフトの導入検討</li> <li>太陽光発電の導入推進</li> <li>LED照明の導入推進</li> <li>3Q（労災、事故、輸送トラブル）向上による環境負荷の低減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CO2排出量削減率（輸送）2013年比 11%減</li> <li>再生可能エネルギー導入率 15%</li> </ul>	  
循環型社会の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>資源使用のミニマム化</li> <li>廃棄物の低減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>梱包材の低減提案</li> <li>紙購入量の削減</li> <li>3Rの推進</li> <li>廃棄物の有価化</li> </ul>		 
環境リスク低減と自然共生社会の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>拠点の緑化、地域の生物多様性保全に寄与</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>拠点内の緑化推進</li> <li>地域の環境美化活動</li> </ul>		 
環境マネジメントの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループでの環境マネジメントの推進/強化</li> <li>意識啓発活動と教育の充実</li> <li>ビジネスパートナーとの連携推進/強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境法令の遵守と環境異常の未然防止</li> <li>環境方針の浸透、自発的行動の促進</li> <li>期待値の共有とコミュニケーション強化</li> </ul>		  

## 2. 2025 年度目標と活動結果

環境方針 1) 脱炭素社会の実現に向けて、環境負荷を低減して地球環境にやさしい物流サービスを提供します。

資源を有効に利用することで、大気汚染物質や地球温暖化物質を削減し、環境に対する影響・負荷を軽減していきます。

目的	(1) 脱炭素社会の構築																																							
2025 年度 目標	① 燃費改善活動を強力に進め、燃料使用量を削減 トラック輸送 CO2 排出量削減率 (トンキロ当り) : 2024 年度対比 4.0%削減																																							
活動結果	<p>■ トラック輸送 CO2 排出量削減率 (トンキロ当り) : 2024 年度対比 2.6%削減 (CO2 排出係数 : 環境省)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">2024 年度</th> <th style="text-align: center;">2025 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>軽油使用量</td> <td style="text-align: center;">8,153 kℓ</td> <td style="text-align: center;">7,993 kℓ</td> </tr> <tr> <td>原単位 (KL/万 t・km)</td> <td style="text-align: center;">0.195</td> <td style="text-align: center;">0.190</td> </tr> <tr> <td>2024 年度比</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">2.6%削減</td> </tr> <tr> <td>CO<sub>2</sub> (二酸化炭素) の排出量</td> <td style="text-align: center;">21,034t</td> <td style="text-align: center;">20,622t</td> </tr> </tbody> </table> <p style="margin-top: 10px;">原単位 = <math>\frac{\text{使用燃料 (原油換算kℓ)}}{\text{荷量 (t)} \times \text{距離 (km)}}</math></p> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;"><b>原単位の推移</b></p> <p style="margin-top: 10px;">i) 輸送能力の高い車両の使用 (効率輸送) 輸送能力の高い車両 (大型化・低床車化・トレーラー化) を使用することで、輸送回数の低減を図っています。</p> <p style="margin-top: 10px;">積載時は、混載 (荷主毎に車両を分けるのではなく、複数の荷主の荷物を合わせて積載する) をすることにより車両を満載にし、車両の積載能力を最大限に活用します。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="4" style="background-color: #003366; color: white;">保有台数における車格ごとの構成比</th> </tr> <tr> <th>車格</th> <th>2009 年度</th> <th></th> <th>2025 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>15~13t</td> <td style="text-align: center;">23%</td> <td style="text-align: center;">↗</td> <td style="text-align: center;">78%</td> </tr> <tr> <td>11~8t</td> <td style="text-align: center;">64%</td> <td style="text-align: center;">↘</td> <td style="text-align: center;">13%</td> </tr> <tr> <td>4t</td> <td style="text-align: center;">10%</td> <td style="text-align: center;">↘</td> <td style="text-align: center;">6%</td> </tr> <tr> <td>小型他</td> <td style="text-align: center;">3%</td> <td style="text-align: center;">→</td> <td style="text-align: center;">3%</td> </tr> </tbody> </table> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  <p style="background-color: #003366; color: white; padding: 5px; display: inline-block;">長距離大量輸送のためのトレーラー化</p> </div> <p style="margin-top: 10px;">ii) 車両の点検・整備 タイヤの空気圧を乗務員が毎月点検し、適正な空気圧を維持しています。</p>		2024 年度	2025 年度	軽油使用量	8,153 kℓ	7,993 kℓ	原単位 (KL/万 t・km)	0.195	0.190	2024 年度比	—	2.6%削減	CO <sub>2</sub> (二酸化炭素) の排出量	21,034t	20,622t	保有台数における車格ごとの構成比				車格	2009 年度		2025 年度	15~13t	23%	↗	78%	11~8t	64%	↘	13%	4t	10%	↘	6%	小型他	3%	→	3%
		2024 年度	2025 年度																																					
	軽油使用量	8,153 kℓ	7,993 kℓ																																					
	原単位 (KL/万 t・km)	0.195	0.190																																					
	2024 年度比	—	2.6%削減																																					
	CO <sub>2</sub> (二酸化炭素) の排出量	21,034t	20,622t																																					
	保有台数における車格ごとの構成比																																							
	車格	2009 年度		2025 年度																																				
	15~13t	23%	↗	78%																																				
	11~8t	64%	↘	13%																																				
4t	10%	↘	6%																																					
小型他	3%	→	3%																																					

iii) 燃料添加剤の投入

燃費向上を目的として、実車テストで効果の確認できた燃料添加剤の投入を 2023 年度から全車両に開始しました。



燃料添加剤

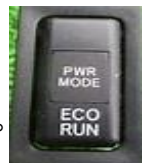
iv) 燃費改善に向けた新アイテム導入

各アイテムについて実車テストを実施し、燃費への効果を確認しました。

内容	停車時クーラ導入によるアイドリング負荷低減	DPR 装置に悪影響のある成分を低減したエンジンオイルによる燃費悪化抑制	移動体太陽光発電導入によるオルタネータ負荷低減
外観			
状況	実車テスト中	2026 年度～導入予定	2025 年度～導入済

v) 省エネ運転指導

デジタル式タコグラフの結果を利用し、2 急（急加速・急減速）回数の削減や、エコドライブスイッチの使用率向上に取り組んでいます。（使用率 36%から 82%に改善）



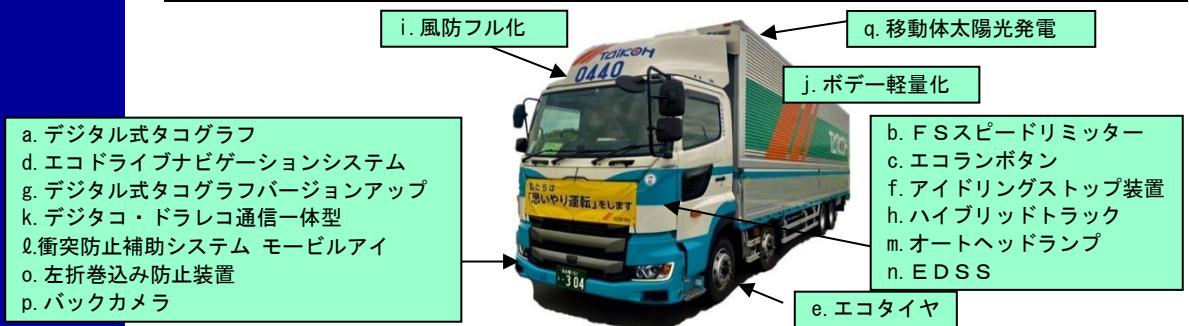
VI) 省エネ・安全機器の導入

燃費を向上させるため省エネ機器・省エネ運転補助機器を積極的に活用しています。

エコドライブスイッチ


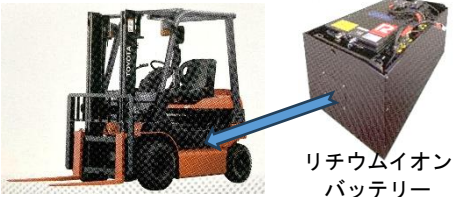



時期	機器	導入状況
2002 年～	a. デジタル式タコグラフ	全車導入
2004 年～	b. FSスピードリミッター（最高速度抑制）	新車装備
	c. エコランボタン（急加速抑制）	新車装備
2006 年～	d. エコドライブナビゲーションシステム	一部導入（11 台）
2008 年～	e. エコタイヤ	全車導入
	f. アイドリングストップ装置	一部装備（1 台）
2010 年～	g. デジタル式タコグラフバージョンアップ	全車導入
2011 年～	h. ハイブリッドトラック	2 台
2015 年～	i. 風防フル化	新車装備（15 t 車）
2017 年～	j. ボデー軽量化	大型新型車以降
	k. デジタコ・ドラレコ通信一体型	全車導入
2018 年～	l. 衝突防止補助システム モービルアイ導入	2010 年以前の PCS 未搭載車両
2021 年～	m. オートヘッドランプ	新車装備
2023 年～	n. EDSS（ドライバー異常時対応システム）	新車装備
2024 年～	o. 左折巻込み防止装置	新車装備
	p. バックカメラ	新車装備
2025 年～	q. 移動体太陽光発電	新車装備

活動結果



- a. デジタル式タコグラフ
- d. エコドライブナビゲーションシステム
- g. デジタル式タコグラフバージョンアップ
- k. デジタコ・ドラレコ通信一体型
- l. 衝突防止補助システム モービルアイ
- o. 左折巻込み防止装置
- p. バックカメラ


- b. FSスピードリミッター
- c. エコランボタン
- f. アイドリングストップ装置
- h. ハイブリッドトラック
- m. オートヘッドランプ
- n. EDSS

2025 年度 目標	<p>② 自社倉庫 LED 照明の導入、きめ細かな節電管理を進め、電力使用量を削減 事業場内エネルギー使用量削減率（収入当り）：2024 年度対比 1.0%削減</p>
活動結果	<p>■事業場内エネルギー使用量削減率（収入当り）：2024 年度対比 25.7%削減</p> <p>i) LED 照明への切り替え 既存設備の水銀灯や蛍光灯から LED 照明への切り替えが完了し、電力使用量の低減を進めています。</p>  <p>切替前（水銀灯）      切替後（LED 照明）</p> <p>ii) デマンド管理 デマンド監視装置により、30 分毎の使用電力を把握し、削減できるものの検討や、ピークカット（電力需要のピークを低く抑えること）を行っています。</p> <p>★省エネ法にて毎年経済産業省へ提出している定期報告書の事業者クラス分け評価制度では、7 年連続で S クラス評価を受け、経済産業省ホームページに公開されています。</p> <p>iii) リチウムイオンバッテリーリフト導入 現在使用している鉛バッテリーから、リチウムイオンバッテリーへ移行し、電力使用量の低減を進めています。</p>  <p>リチウムイオンバッテリー</p> <p>★2025 年度末 777 台中、64 台導入済</p> <p>リチウムイオンバッテリーリフト</p>
2025 年度 目標	<p>③ 太陽光発電の導入を推進 再生可能エネルギー導入率（総電力使用量当り）：15.0%以上</p>
活動結果	<p>■再生可能エネルギー導入率（総電力使用量当り）：17.0%</p> <p>i) 太陽光発電の活用 太陽光発電を積極的に導入することにより、電力量削減を推進します。</p> <p>★2019 年度～導入拠点数 [18 拠点中 9 拠点導入済] 【参考】太陽光発電の効果 CO2 削減量 2025 年度実績（自家消費） 159.4 t</p>  <p>ii) 再生可能エネルギー導入 従来は化石燃料由来の電力を導入していましたが、全拠点で再生可能エネルギーの一部導入を開始しました。</p>
目的	<p>(2) 循環型社会の構築</p>
2025 年度 目標	<p>①資源利用のミニマム化（梱包材の低減提案） ②廃棄物の低減（3Rの推進、廃棄物の有価化、紙購入量の削減） 産業廃棄物削減率：2024 年度対比：1.0%削減 紙購入量削減率：2024 年度対比：2.0%削減</p>
活動結果	<p>■産業廃棄物削減率（収入当り）：2024 年度対比 13.6%削減</p> <p>i) ストレッチフィルムの有価化 ストレッチフィルムを回収し、専門業者に引き渡すことにより材料への再利用を勧めています。</p> <p>ii) パレットの再利用 老朽化した自社木パレットは回収し、修理後に再利用しています。 老朽化した樹脂パレットは材料として有価物化し、また再利用可能な輸入樹脂パレットは他社に譲渡し使用しています。</p>  <p>樹脂パレット</p> <p>■紙購入量削減率（収入当り）：2024 年度対比 15.0%削減</p> <p>i) 電子化による紙削減のしくみ導入 ワークフローや請求資料電子化によるしくみを導入し紙使用の削減を行っています。</p>  <p>自社製木パレット</p>

環境方針 2) 法令・協定など環境への要求事項を遵守します。

環境方針 3) 環境にかかわる社会貢献活動に積極的に参加します。

法的要求事項、公的機関・地域・近隣との協定、業界団体などからの要求事項を遵守し、汚染の予防に努めています。また必要に応じ、より高いレベルの基準を自社で設定し、その達成に努めます。その遵守状況を年2回チェックしています。

目的	(3) 環境リスク低減と自然共生社会の構築
2025年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①環境設備・車両の保守・点検による環境異常の未然防止</li> <li>②法律・条例の定期チェックによる環境法令順守 遵守率 : 100%</li> <li>③拠点内の緑化推進 計画実施率 : 100%</li> <li>④地域の美化活動 計画実施率 : 100%</li> </ul>
活動結果	<p>■車両及び給油・洗車設備などからの油漏れ等を未然防止するため、法的要求事項より更に厳しい管理項目にて日常管理を実施しています。</p> <p>■法律・条例の定期チェックによる環境法令順守 遵守率 : 100%</p> <p>i) 改正省エネ法に基づき「中長期計画書」「定期報告書」の届出を行っています。自家給油スタンド・浄化槽・業務用エアコン等の日常管理を徹底しています。廃棄物の適切な処理により、埋立・焼却廃棄物の削減に努めています。</p> <p>■拠点内の緑化推進 実施率 : 100%</p> <p>i) 全拠点にて緑化推進の整備計画を立案し拠点内の緑化推進を行っています。</p> <p>■地域美化活動 実施率 : 100%</p> <p>i) 従業員全員参加で拠点周辺の清掃活動を継続的に毎月実施しています。 地域美化活動 : 参加人数 延べ 1,472 名</p> 

環境方針 4) マネジメントシステムを有効に活用し、目標を具体的に定め、定期的な見直しを行い、継続的な改善に努めます。

環境方針 5) この環境方針を全社員に周知し、社外に公開します。

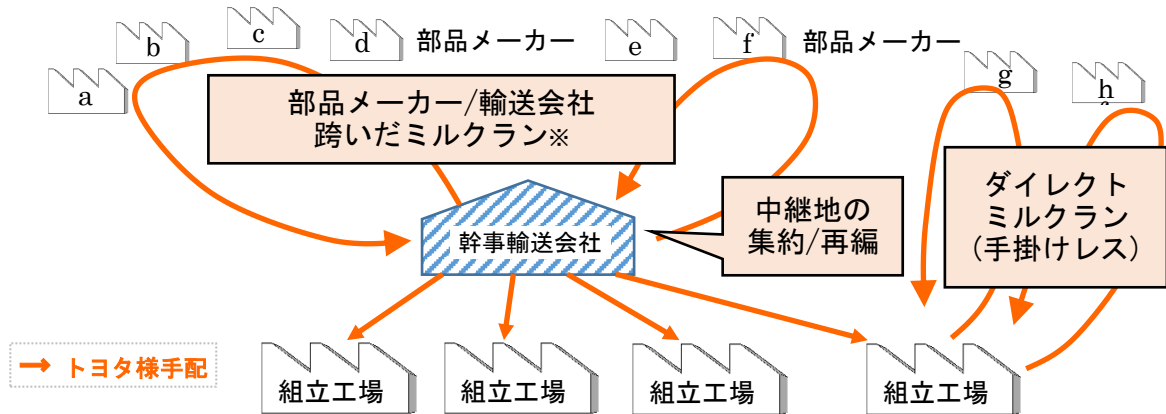
環境マネジメントシステムにより、当社の経営のしくみをさらにレベルアップさせています。また、社会貢献活動を実施しています。

目的	(4) 環境マネジメントの推進
2025年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①内部監査を実施し、マネジメントの有効性を確認 計画実施率 : 100%</li> <li>②環境及び ISO の教育や話し合いを定期的実施し、環境への認識を向上 計画実施率 : 100%</li> <li>③得意先・物流パートナー会社・仕入先に環境に関して働きかけ実施 計画実施率 : 100%</li> </ul>
活動結果	<p>■内部監査 実施率 100%</p> <p>i) 内部監査 : 全部門に対し実施 (24 部門)</p> <p>ii) 部門相互サポーター制による現場点検 : 5 グループ×2 回</p> <p>■教育、働きかけ 実施率 : 100%</p> <p>i) 教育の実施・定期的な話し合い 実施率 : 100%</p> <p>ii) 内部監査員の養成・レベルアップ 実施率 : 100%</p> <p>iii) 得意先・物流パートナー会社・仕入先への働きかけ 実施率 : 100%</p>

### 3. その他 地球温暖化防止への取組み

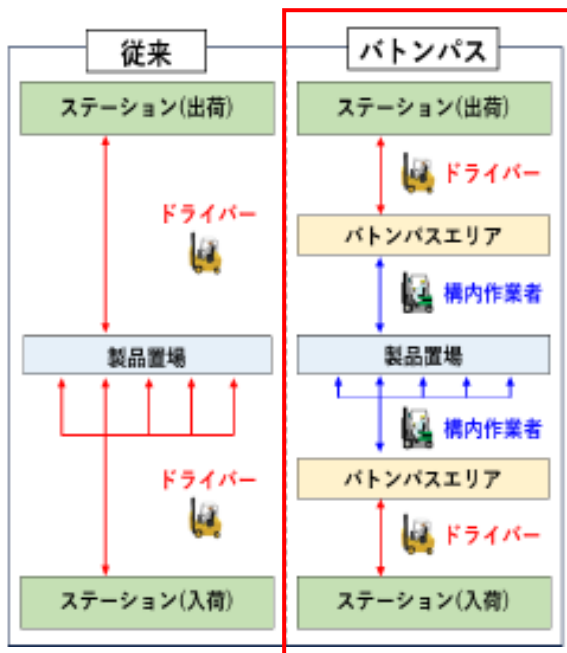
#### 1) トヨタ自動車様による部品の引取物流拡大

部品メーカー個々により手配していた物流が、トヨタ自動車様手配に変更となりました。それにともない当社は引取物流の幹事輸送会社として、物流効率化の実現を目指します。



※ミルクラン：1台のトラックで複数の部品メーカーを集配して回る効率的な配送方式

#### 《自社 中継地》



#### 【バトンパス導入目的】

- ・ドライバー作業時間短縮
- ・リフト交錯 大幅削減

#### 2) ハイブリッド車の導入

ハイブリッド車（15t）を2023年度に導入しました。

燃費の向上とCO2排出量削減に大きく貢献することが期待されます。



### 3) クールビズ・ウォームビズ

冷暖房のみに頼らず快適に過ごせるよう  
クールビズ・ウォームビズを実施しています。



クールビズ・ウォームビズポスター

### 4) エコ事業所認定

愛知県半田市が実施する「はんだエコ事業所」に  
半田支店が、愛知県刈谷市の「かりやeco事業所」に  
本社・刈谷支店が認定されています。



はんだエコ事業所



かりやeco事業所

また、刈谷市発行の「かりやエコマップ」に、当社の環境  
への取組みが掲載されました。市役所や商工会議所、  
駅観光案内書等に配布されています。



かりやエコマップ

### 5) 資源の再利用

トラックには、再生タイヤ（リトレッドタイヤ）やリビルト部品（分解・洗浄・部品交換・組立調整した再生部品）を利用し、資源の再利用に努めています。

## 4. 油等漏れ未然防止活動

車両からの油漏れを未然に防ぐため、車両の管理・給油等の手順の遵守を徹底しています。  
また、緊急事態への備えとして、全車両に油の受け皿・粘土・ウエスに加え、漏れた油をより効率的に回収するための油処理剤・ほうき・ちりとりを携行しています。  
毎年、油漏れを想定した緊急事態対応訓練を実施しています。

環 境 面	燃料給油時(燃料タンク)	タンク本体のしみ、漏れ、損傷の有無	
		燃料石炭油の防止(オートストップの実効)	
		燃料キャップパッキンの劣化	
		キャップ閉め忘れ(合いマークの確認)	
	駐車位置の地面の油漏れ (車両下部全体) (E/G・ミッション・ラジエーター・エアードライバー)	始業前点検時	
緊急用備品	得意先駐車時		
		油の受け皿、粘土、ウエスの携行	

日常点検にて油漏れ確認実施



緊急事態対応訓練

## 5. 環境会計

2025 年度も支店・物流センターの照明を水銀灯や蛍光灯から LED 照明へ切り替え、移動体太陽光発電導入、太陽光発電の導入、CO2 フリー電力導入拡大など地球温暖化防止費用として多額の投資を行っています。

その成果として CO2 排出量の削減につながるとともに費用面でも電気使用量節減により省エネルギー効果が出ました。

引き続きトレーラーなど輸送効率の高い車両の活用や、燃費の良い新型車両の有効利用、さらに燃料添加剤の導入により燃費向上に努めていきます。

### 環境保護コスト

環境保護コスト分類		2025 年度集計結果 (百万円)	内容
事業 エリア内 コスト	公害防止	7.4	・給油スタンド管理 ・浄化槽管理 等
	地球温暖化防止	139.9	・移動体太陽光発電導入 ・CO2 フリー電力導入 ・太陽光発電設置 等
	資源循環	41.6	・廃棄物処理
管理活動コスト		0.9	・環境教育、コミュニケーション ・ISO14001 維持 等
合計		189.8	

## 6. コミュニケーション

### 1) 環境レポート・TAIKOH Report

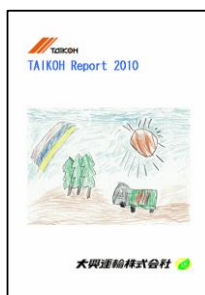
2003 年度より「環境レポート」の発行を始め、2010 年度より「TAIKOH Report」として活動のまとめを行っています。今回の発行は 24 回目となります。

地域・行政・顧客・株主に対して、当社の取組みを PR するために配布・公開を行っています。また、当社の従業員に対して、前年度の活動結果が今後の活動に活かせるよう、周知をしています。

環境レポート創刊号  
2003年



TAIKOH Report  
2010年



2023年



2024年



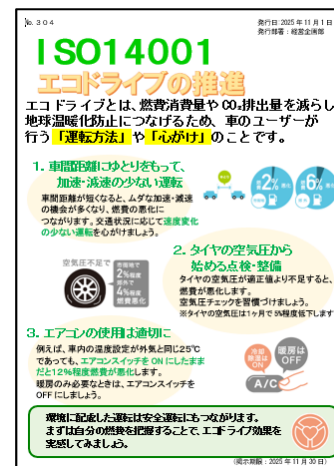
2025年



## 2) 啓発ポスター

毎月、啓発ポスターを全社へ配布しています。

	No.	テーマ
4月	No. 297	設備点検・活動計画
5月	No. 298	2025年度環境目標
5月	臨時	クールビズ
6月	No. 299	環境月間 TAIKOH Report 2025 発行
7月	No. 300	内部監査実施・エコランモード活用
8月	No. 301	JQA 定期審査日程・油等漏れ点検
9月	No. 302	JQA 定期審査結果
10月	No. 303	産業廃棄物の有価物化
11月	No. 304	エコドライブの推進
11月	臨時	ウォームビズ
12月	No. 305	DPR 手動再生時間短縮のお願い
1月	No. 306	冬季の節電・省エネ
2月	No. 307	内部監査日程・省エネ運転
3月	No. 308	内部監査ストロングポイント



啓発ポスター No. 304

## 7. 親会社

### 1) 株式会社豊田自動織機

開発機器のモニター評価に当社拠点が協力をしています。

## 8. グループ会社

### 1) 大興タクシー株式会社（旅客運送事業）

2005年2月に交通エコロジー・モビリティ財団によるグリーン経営を認証取得しています。

また、愛知県刈谷市が実施する「かりやeco事業所」に認定されています。

2024年度本社に太陽光発電設備を設置しました。

### 2) 株式会社東海興運（貨物運送事業）

2004年11月にISO14001を認証取得しています。

省エネ運転を推進し、資源の有効利用とCO2排出量の削減に取り組んでいます。

2025年度にCO2フリー電力の導入を開始し、また新社屋建設に伴い省エネ仕様の設備導入を行いました。

### 3) 株式会社オートサービス大興（自動車整備業・中古自動車小売業）

2005年11月にISO14001を認証取得しています。また、愛知県半田市が実施する

「はんだエコ事業所」に認定されています。

工場の省エネ・効率的な業務への改善活動を推進しており、工場内の照明はすべてLED照明に切り替えが完了しています。

- ・グループ会社においても中期環境目標を作成し、全員参加で活動しています。

## 9. 2026 年度の取組み計画

物流サービスを提供する会社として、2026 年度からの活動として新たな「中期環境目標（2026～2030）」を策定しました。

CO<sub>2</sub> 排出量の削減を重点項目とし積極的に取組み中期環境目標を達成します。また、その活動が品質活動とともに現場に根付いたものになるよう、現場点検を実施し、全社的な活動として真のシステムの定着を図っていきます。

取組み項目	実施事項	中期環境目標 (2026～2030)
1) 脱炭素社会の構築	(1) 車両の定期更新、低燃費車両導入、燃費改善アイテム導入、エコドライブ推進	【輸送 CO <sub>2</sub> 】 原単位 毎年前年度比 1%減
	(2) 高効率バッテリーリフト導入、省エネ活動推進	【事業場内 CO <sub>2</sub> 】 CO <sub>2</sub> 排出量削減率 2021 年度比 : 42%減
	(3) 太陽光発電導入、CO <sub>2</sub> フリー電力導入拡大	—
	(4) 3Q（労災、事故、輸送トラブル）向上	—
2) 循環型社会の構築	(5) 梱包材の軽減提案、3Rの推進、廃棄物の有価化	—
	(6) 紙購入量の削減（裏紙使用、電子化）	—
3) 環境リスク低減と自然共生社会の構築	(7) 拠点内の緑化推進	—
	(8) 地域の美化活動	—
4) 環境マネジメントの推進	(9) 環境法令の遵守と環境異常の未然防止	—
	(10) 環境方針の浸透、自発的行動の促進	—
	(11) 期待値の共有とコミュニケーション強化	—



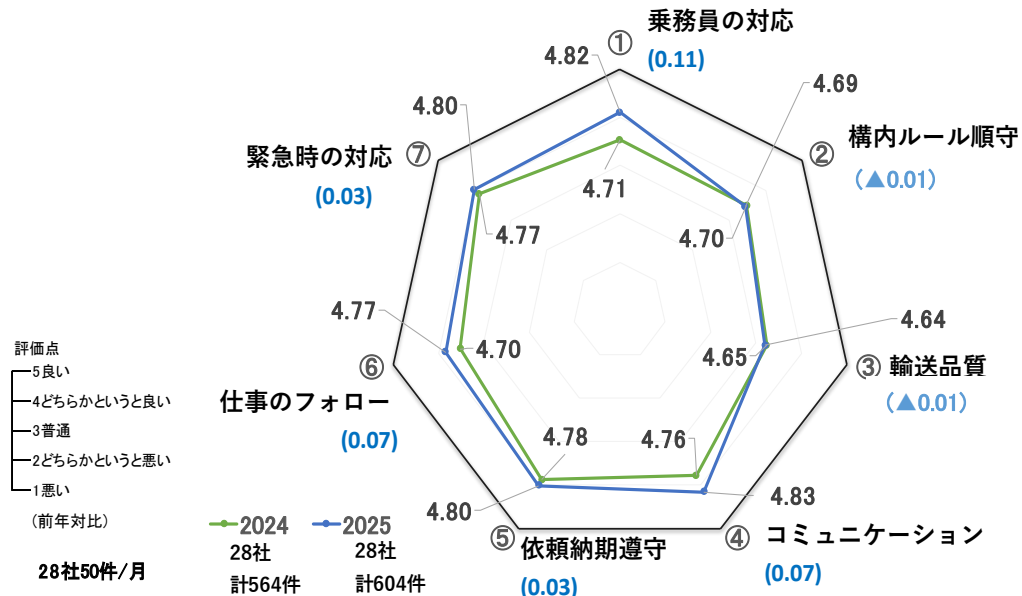
## V. ステークホルダーに関わる活動

### 1. お客様との関わり

#### 1) CSアンケート(満足度調査)

お客様の立場に立ったより良い物流サービスの提供に向け活動を実施

##### (1) 評価結果 (2025 年度)



##### (2) まとめ

今後、よりいっそう輸送業界を取り巻く環境が厳しさを増していくなか、お客様とのコミュニケーション向上を図り、輸送品質・業務対応ともに各項目のレベルアップに努めます。

### 2. 社会との関わり

私たちは豊かで健全な社会を目指し、よき企業市民として地域の発展に寄与します。

#### 1) 交通安全

(1) 愛知県トラック協会西三支部刈谷部会主催の「児童交通安全教室」が行われました。交通安全教室ではトラックの運転席や後方からの死角体験を行ない、全校児童がトラックの特性と危険性について学びました。



トラックの死角体験の様子

(2) 愛知県トラック協会西三支部刈谷部会主催の「児童交通安全教室」が行われました。交通安全教室では全校児童を対象に制動実験と巻き込み実験の実演が行われ、4年生の児童を対象にして、トラックの運転席からの死角を体験してもらい子ども達を交通事故から守る活動が行われました。



トラックの死角について教える様子

## 2) ボランティア活動

開発途上国の子供たちにワクチンを送ることを目的に、ペットボトルのキャップを回収しています。この活動に対し、NPO 法人より感謝状をいただきました。

また、ちょこボラ募金（豊田自動織機グループ歳末助け合い運動）・バザー提供品回収等も行っています。



エコキャップの流れ

## 3) 寄付

社会貢献活動として、各種団体の趣旨に賛同し様々な寄付を行っています。下記はその一例です。

区分	団体・協会名・大会名
社会福祉	・刈谷共同募金委員会
	・更生保護法人愛知県更生保護協会
	・公益社団法人 被害者サポートセンターあいち※

※寄付型飲料自動販売機を設置し、その売り上げの一部が、犯罪や交通事故に遭われた被害者の方などへの支援に貢献しています。



## 3. 従業員との関わり

私たちは、物流サービスを提供する会社の一員としての社会的責任を自覚し、仕事に誠実に取り組むとともに、働きやすい職場づくりをします。

### 1) 雇用

障がい者、女性総合職・作業職を積極的に採用しており、障がい者、女性が働きやすい環境を整えるため、インフラ整備を進めています。

また、熟練技能活用のため定年後継続雇用率の向上を目指しています。

## 2) コンプライアンス

CSR 委員会を設置し、企業行動・法令等の遵守・リスク管理に関する審議を行っています。従業員には、一人ひとりが法令や社会のルール・マナー、就業規則を守って行動するための指針として「豊田自動織機グループ行動規範」を配布し、理解活動を行うとともに、コンプライアンスに関する教育を実施し、意識の向上を図っています。また、企業倫理に関する相談については、「内部通報窓口（法律事務所）」を設け、従業員からの相談に対するフォローを行っています。

## 3) リスクマネジメント

企業経営に重大な影響を及ぼす様々なリスクに対し、未然防止に努めるとともに、万一に備えて発生時の対応を緊急事態対策規定で決定しています。また、社員と家族の安全を最優先とした\*BCPの構築に取り組んでいます。災害発生時の従業員の安否確認には、従業員の携帯電話に自動的に安否確認メールが配信される「安否確認サービス」を利用し、安否の把握を迅速かつ確実にできる体制を整えています。各拠点には震災備品庫を設置し、水・食料・発電機・簡易トイレ等の備蓄品を保管しています。

\*BCP (Business Continuity Plan) : 事業継続計画。自然災害等の緊急事態発生時に業務を中断せず継続できるようにすること。万一中断した場合、早期復旧のために準備する活動。

### (1) BCPへの取組み

2021年度にBCP中期計画を策定し、ハード・ソフト両面で推進しています。各拠点で危険箇所を特定・対策し、毎年、全拠点の進捗状況の確認と、現場点検を実施しています。また、トラックに車載防災グッズを積載し、雪害や水害等により道路で立ち往生した場合等の備えとして食料・水等を配備しています。

### (2) 緊急対策本部訓練・震災訓練

毎年、緊急対策本部を立上げ地震災害の発生を想定した訓練を実施しています。全社の状況把握を非常用電源(リフト給電等)・非常用通信(ポケットWifi)等を使用し、報告ならび本番を想定した応答訓練などを実施しています。その他にも、震災訓練として消火訓練や応急手当講習、また、各拠点では避難訓練、安否確認訓練等を実施しています。

## 《応答訓練》



対策本部



《BCP対応設備》



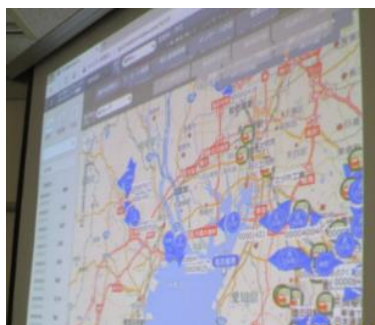
非常用電源(リフト給電)



自販機(災害救援ベンダー)



非常用通信(ポケットWifi)



車両位置(デジタコGPS)



防災マップ

《各拠点での避難訓練》



《消火訓練・応急手当講習》



4) 改善推進活動

従業員の創意工夫を奨励し、安全、品質、環境、コスト、生産、モラル等の改善をはかり、企業の体質改善に寄与する活動を行っています。

【主な活動】

活動	内容
(1) 改善推進委員会	改善推進委員が集まり、改善推進状況を共有化します。また、優秀な改善を審査し等級を決定します。
(2) 改善事例集の発行	等級の高い改善、横展開できる改善を回覧、掲示することにより、改善内容の共有化を図ります。
(3) 改善事例ポスターの掲示	
(4) 改善成果発表会	年に1回、各部門代表者が自部門から選出された改善を発表します。優秀な発表者に各賞を贈呈しています。
(5) 改善強調月間	年に2回実施し、その月に改善報告状況の結果が上位の部門に対し表彰します。
(6) 改善年間表彰	審査結果の年間合計点の上位者に各賞を贈呈します。

【年間報告件数】

改善内容	件数
安全	1,092
品質	2,336
環境	302
その他	1,784
合計	5,514



改善成果発表会 受賞者

## 5) 社外表彰

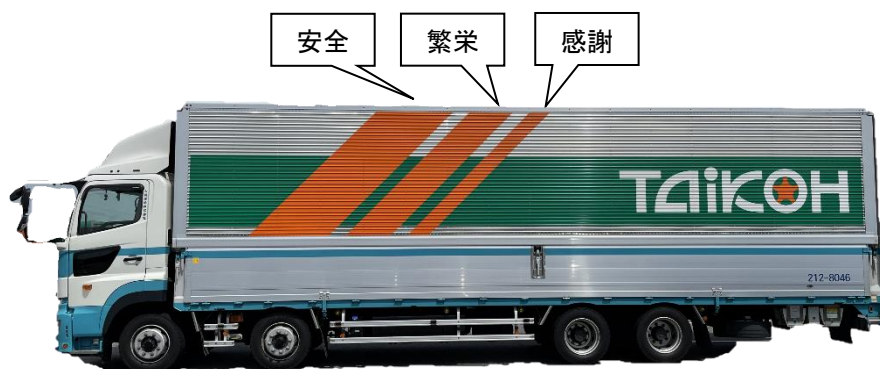
	主催	内容	対象 (名)
個人表彰	全日本トラック協会	金十字章	3
		銀十字章	6
		全ト協表彰規定による表彰	3
	愛知県トラック協会西三支部 刈谷部会	優良運転者 (10年)	3
	陸上貨物運送事業労働災害防止協会 (陸災防)	功績賞	2
		功労賞	1
	中部交通共済協同組合 (中交協)	優良運転者	1
	中部運輸局	愛知運輸局長表彰	1
	愛知県警	県警本部長表彰	2
	愛知県交通安全協会	交通安全功労者	2
	愛知県交通安全協会刈谷支部	優良自動車運転者	4
	愛知県交通安全協会半田支部	交通安全功労者	1
	刈谷自家用自動車組合	優良自動車運転者	2
		計	

## 6) ホワイト物流推進運動

国交省・経産省・農水省やトラック協会・運輸労連等が協力して進めている『ホワイト物流推進運動』に当社も賛同し、自主行動宣言を提出しました。トラック輸送の生産性・物流の効率化、女性や60代以上の運転者等も働きやすい、より「ホワイト」な労働環境の実現を目指していきます。

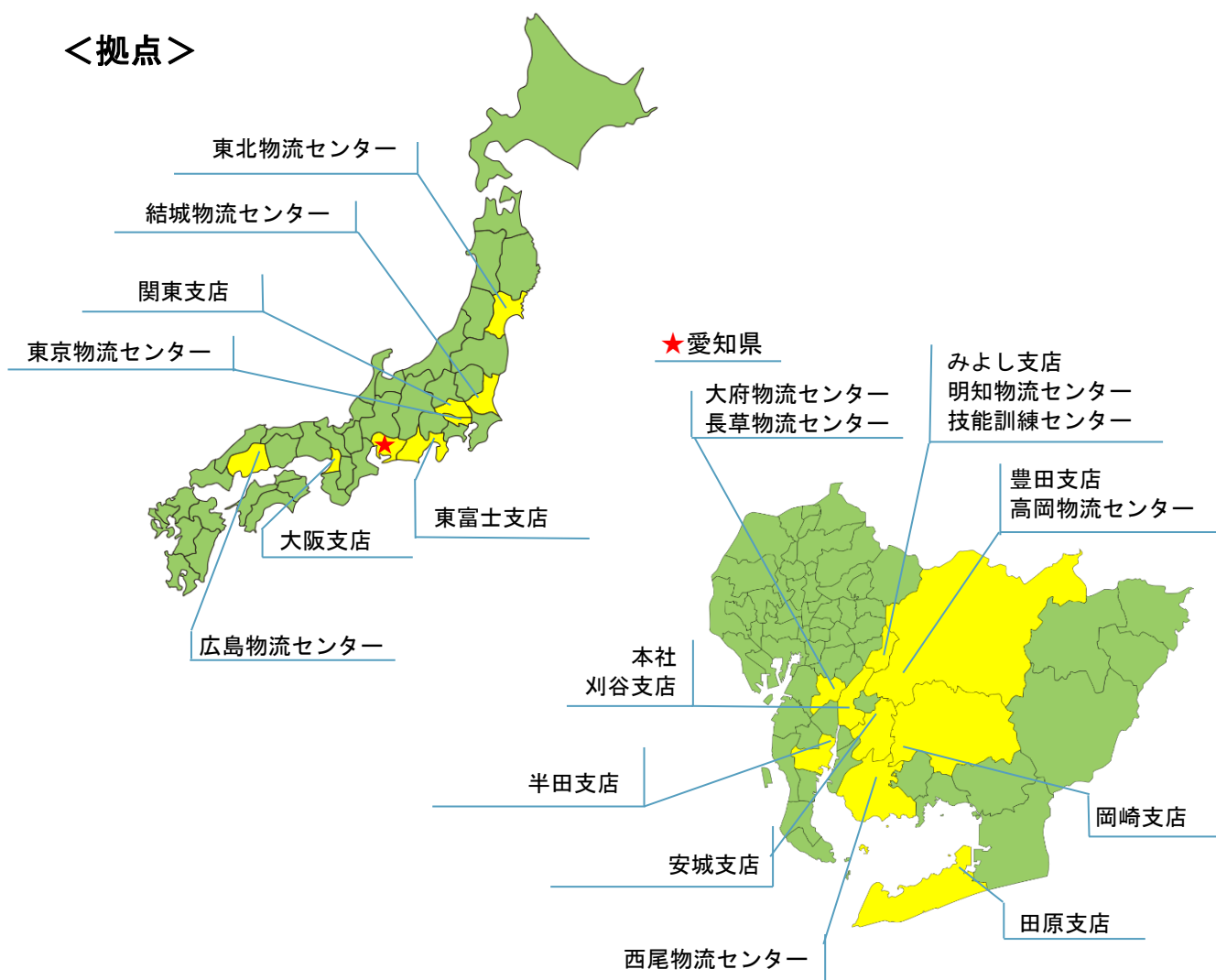


私たちは常に安全と繁栄を願い感謝の気持ちで輸送します。  
トラックの3本のラインは「安全」「繁栄」「感謝」をあらわしています。



# 大興ネットワーク

## <拠点>



2026年3月31日 現在



環境ロゴマーク

発行：2026年5月  
発行部署：〒448-0843  
愛知県刈谷市新栄町二丁目38番地  
大興運輸株式会社 経営企画部  
TEL 0566-21-3416  
FAX 0566-21-4837

<http://www.taikoh.co.jp/>

TAIKOH Report はホームページでもご覧いただけます